

2014 青年春闘アピール

青年が声を上げよう、職場・地域から全国へ！
～安心して暮らせる社会を 2014 青年春闘～

賃金が安く結婚して子どもを育てていけるのか、正社員になってもいつクビといわれるのか、残業続きで身体がもたない、医療や年金の改悪で将来はどうなるのだろう…。いま、多くの青年が「不安」を抱えながら生活しています。

しかし、政治は、働き方や暮らしを何とかしたいという私たちの願いや世論とは逆行して、大企業の要望にこたえ、解雇の自由化や労働時間の規制緩和・派遣法の改悪など労働者の使い捨てをいっそう進めようとしています。さらに、消費税増税、社会保障削減、原発輸出・再稼働、特定秘密保護法の成立、憲法改悪、TPP参加などの動きを強めています。

この厳しい情勢のなか、私たち全労連青年部は、日本全国から働く青年の声を一斉にあげて、「安心して働き続けられるだけの賃金を！」「最低賃金を上げろ！」「平和と憲法を守ろう！」「震災復興・原発ゼロ」の要求実現をめざし、全国から集まった青年の活発な討論と交流により、2014 年の青年春闘方針を確立しました。

討論では、「毎日12時間労働で組合活動もできない」「非正規雇用で働いているが、労働組合に入ると契約更新されない心配がある」「正規職員でも月収12万円しかもらえない。パートの方が収入が多い」「人員不足で業務が増えている」という青年の実態が語られました。

要求実現のために、「世代別でのお食事会で日常の愚痴を聞きながら要求作りをしている」「青年独自の交渉で制服改善を勝ち取った」「お仕事交流会で様々な職の働き方を比較し、自分たちの要求を再確認した」「青年部として初めて春闘討論集会を開催する」「青年の状況を訴えた団体交渉でベースアップを勝ち取った」などの各地の取り組みが交流されました。また、青年の要求を訴える大規模な宣伝行動に取り組んだ青年たちは「運動が青年の行動の起爆剤になり、つながりも広がった」と語りました。

取り組みの中から「最低賃金は青年の生活にも大きく影響するからこそ、地域間格差をなくし、安心して暮らせる賃金を実現したい」「組合の活動が見えたから労働組合に入った。活動を広く伝えていきたい」「青年部のメンバーと信頼関係を深め、共に活動するなかまを増やしていきたい」「青年部を作って要求前進をさせていきたい」などの決意が語られました。

今こそ労働組合が”ひかり輝くとき”です。青年にとって厳しい情勢ですが、黙っているだけでは賃金の引き上げや労働条件の改善は勝ちとれません。

全国の取り組みを教訓に、青年らしい創意工夫でなかまを労働組合に迎え入れ、切実な要求をあつめ、職場と地域から青年が声を上げ、大幅賃上げなどの要求実現に力をあわせよう。青年がまともに生活できて、憲法をまもりいかなる社会の実現をめざして、青年春闘を全国で展開していこう。

2013 年 12 月 15 日
全国労働組合総連合青年部
第 30 回代表委員会